

や す ら ぎ 通 信

第 30 号 (平成 25 年 5 月 1 日) 発行：大阪府立急性期・総合医療センター

皐月(早苗月)

茶摘(ちやつみ)

作詞作曲 不詳

夏も近づく八十八夜

野にも山にも若葉が茂る
あれに見えるは茶摘みじゃないか
あかねだすきに菅(すげ)の笠

日和(ひより)つづきの今日この頃を

心のどかに摘みつつ歌う
摘めよ摘め摘め 摘まねばならぬ
摘まにゃ日本の茶にならぬ

さくら舞い散る4月はあっという間に過ぎ去り、新緑の色合いが勢いを増す5月になりました。陽光が日に日に強さを増し、自然界においてはこの春誕生したたくさんのいのちが大きく成長しようとし始めるこの季節は、まさに生命の力を見るものを感じさせる成長の季節ではないでしょうか。

皆さま、こんにちは。今月からやすらぎ通信を新たに担当することになりました。前筆者の“食後のデザート感覚で読んでいただけるニュースレター”のモットーを継承し、ほっこりするような話題を交えながら読者の皆さまに一時でもやすらぎを感じていただけるような紙面づくりに努めたいと考えております。拙文ゆえなかなか前筆者のようには参りませんが、引き続きご愛顧をよろしくお願いいたします。



さて、今回の表紙を飾りました歌は「茶摘」です。

この歌詞にある八十八夜は、ご承知のように立春を起算日として88日目の日で5月の初めにあたります。春から夏に移る節目の日でもあり、農作業の種まきにも適した時期で、お茶の木にとってもまだ小さいながらも緑の新芽が伸びだした頃です。昔からこの日に摘んだ茶は上等なものとされ、また、この日にお茶を飲むと長生きするとも言われています。皆さまも新茶の出回る季節を迎え、初夏のみずみずしい緑の生命力を一杯のお茶から取り込まれたら如何でしょうか。

ところで、お茶は日本には中国から伝来したという説と、もともと日本に自生していたという二説があるそうです。中国伝来の話としては、奈良時代から始まる「遣隋使」や「遣唐使」が日本に戻る際に当時中国でも珍重されていた「茶」を土産として持ち帰ったというもので、時代は下りますが有名な話としては中国宋代の一時期に盛んだった抹茶の製法を栄西禅師が持ち帰り、蒸し製の茶作りが日本茶の基礎になったと言われています。

その後、お茶は寺院や宮廷で飲まれ、特に禅宗ではその効能から修行の薬として用いられ、やがて寺院の門前などで参詣に訪れる人々に売られるようになり、施薬の茶として人々に普及していきました。さらに戦国時代には、茶と禅の思想が結びついた侘び茶が発生し、お茶は日本を代表する文化へと独特の発展をしていきました。

それにしてもこれほどまで日本でお茶が愛されようになったのは、日本の風土に合ったことやお茶の持つ効能、そして喫茶が人と人とのコミュニケーションの機会をつなぐ重要な媒介となったからではないでしょうか。

人と人が出会い、話をする時に飲食をともにすることは昔から重要なコミュニケーションの手段とされています。互いに一つのテーブルにつき同じものを飲み食べすることは互いの距離感を一気に短縮させてくれます。その中でも、お茶は手軽で美味しく、昔の日常風景の中では文字通り「まずお茶でも…」の世界が繰り広げられていました。今ほど、多様な飲み物も普及していない時代では、台所には大きな薬缶があり茶の間の卓袱（ちゃぶ）台の上には急須が置かれ、なんだかんだといったら陶器や磁器で出来た湯飲みで日に何度も何度もお茶を飲み、来客時には少し上等の茶葉をこれまたよそ行きの湯飲みに入れてもてなしたものでした。

今日では、お茶を飲むにしてもずいぶんペットボトルから飲む機会が増えてしまいました。最近のペットボトルのお茶の製造技術の向上は著しく、大変美味しいお茶が量販店やコンビニエンスストア、自動販売機で販売され、日本のお茶需要を支えています。この気軽に買って飲めるスタイルが多くの方に支持され、お茶を好む人をつなぎとめていると言えるでしょう。

ただ、便利なことは否定しませんがお茶を飲むという行動に伴ういろいろな手順が省略されたものとなり、その持つ意味合いが忘れ去られ、さらに味覚以外で味わっていた微妙な情感に満ちた味わいまでもがいつしか失われてしまうのではないか、と思えるのは単なる私の杞憂なのではないでしょうか。

文化というものは、ガラスケースの向こうにあるものではなく日々の生活の中で生き続け、脈々と培われているものだと言えます。お茶も伝統的な茶道でなくても、たとえ番茶でも（ちなみに私は番茶が大好きです）一手間掛けて自分で淹れて、そのたび毎に異なる味を、色を、お湯の温度を楽しむことで知らず知らずのうちに私たちは文化を繋いでいるのではないのでしょうか。

昔からの伝統を守るという固い感じではなく、まずは出回り始めた今年の新茶を少し丁寧に淹れて、青い皐月の空の下、濃い緑の畝続く茶畑に思いを馳せながら、家族や友人とわいわいと、あるいは一人でのんびりと味わって見られるのは如何でしょうか。

NEWS

【(継)白内障 日帰り手術開始！！－眼科－】

当センター眼科では、白内障手術を重要手術の一つとして行ってきました。白内障とは水晶体が混濁する病気多くは加齢性変化です。自覚症状としてはぼやけて見えたりまぶしく感じられたり様々です。当科では平成24年には1322件と10年前と比べても大幅に増加しています。

現在まで当科では白内障手術をすべて入院手術で行ってきました。白内障手術機器

の進歩や感染症対策の充実により安全性も高まってきました。また社会的な背景もあり当科での白内障手術は原則として日帰りで行うことになりました。また日帰り白内障手術の術中や終了後に万一、全身状態などが急変した場合には専門医師による対応や入院が可能ですのでご安心下さい。

白内障手術ですが、局所麻酔で行い手術時間は15～20分程度です（時に30分以上かかる場合もあります）。通常、傷口は3mm弱で超音波により水晶体核を砕き、その周りの柔らかい皮質を吸引した後に眼内レンズを挿入します。術後は1時間程度安静の後に問題がなければ帰宅していただきます。術後の通院は必要です。重篤な合併症としては感染症などがありますが、通常のもは目薬や日にち薬で良くなっていきます。詳しいことは診察時にお尋ね下さい。

眼科 主任部長 内堀 恭孝

【(継)長井美樹医長等、「摂食嚥下ケアがわかる本—食の楽しみをささえるために—」を共同執筆・出版 —耳鼻咽喉・頭頸部外科—】

3月にエピック社より「摂食嚥下ケアがわかる本」(監修松田 暉先生、編集野崎 園子先生)が出版されました。

本書は兵庫医療大学リハビリテーション学部教授で神経内科専門医の野崎園子先生を中心に、当センターから耳鼻咽喉・頭頸部外科 長井美樹医長、摂食嚥下認定看護師 山本陽子看護師と西尾依見子看護師、リハビリテーション科 大黒大輔言語聴覚士もそれぞれの専門分野で分担執筆しております。

本書の対象は患者さん、ご家族の方、介護者の方など嚥下に困っているすべての方に読んでいただけるものとなっています。摂食嚥下機能改善のための体操や訓練、姿勢、食形態、食器、食べ方や介助法、摂食嚥下を助ける装置や補助具、手術法、チューブ栄養や胃瘻についても解説されています。医療従事者の方であれば患者さんへの説明などにも使えると思います。

是非、多くの医療関係者、患者さんやご家族の方などにお読みいただければと思います。

構成 (略)

はじめに	松田 暉	
9	食事介助のコツ	山本陽子・西尾以見子ほか
14	家庭でのリスク管理	山本陽子・西尾以見子ほか
18	繰り返す誤嚥性肺炎への対応	山本陽子・西尾以見子ほか
19	誤嚥イコール絶食ではない	大黒大輔
20	経鼻経管栄養・経腸栄養剤	山本陽子・西尾以見子ほか
22	誤嚥を防止する手術	長井美樹
23	嚥下を助ける手術 (嚥下機能改善手術)	長井美樹
26	専門資格：摂食嚥下障害の認定資格	山本陽子・西尾以見子ほか
おわりに		野崎園子

【(継)外科から新たに呼吸器外科が独立しました！ —呼吸器外科—】

呼吸器疾患の診療におきましては、地域の先生方には平素より大変お世話になり有り難うございます。

さて、当センターの呼吸器外科はこれまでは「外科」のなかの一分野として、4つの領域（消化器外科、乳腺内分泌外科、呼吸器外科、小児外科）の一つとして業績を積んで参りましたが、この4月から独立しております。

診療内容は、肺癌、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍など胸部の腫瘍性病変が主な対象です。胸腔鏡を用いた内視鏡手術による低侵襲治療を積極的に行い入院期間の短縮を図っており、腫瘍性病変の他、気胸、膿胸や胸膜炎などに対しても内視鏡治療を積極的に行っていきます。

また、当センターではPET-CT 検診も始まっています。胸部領域における未確定の腫瘍性病変や、胸水など胸膜疾患に対する診断の機会・必要性は今後ますます増えていくものと思われまます。胸部疾患の診断に対しても胸腔鏡手術の手法を用いて積極的にアプローチしていきます。

胸部領域の診療におきましては、これまでも呼吸器内科、画像診断科、放射線治療科と連携して診断治療を行って参りましたが、呼吸器外科の独立を機に一層連携を強化し、診療科横断的な体制で日々の診療と集学的治療に当たっていきたくと思ひます。

呼吸器外科の標榜により、これまで以上の充実した地域医療連携を行えるよう努めて参りますので、何卒ご指導の程お願い申し上げます。

呼吸器外科 部長 大森謙一

【(継)下肢静脈瘤 血管内レーザー治療を実施しています—形成外科—】

従来下肢静脈瘤の治療は、医療機関によって血管外科、形成外科、皮膚科などの診療科で行われてきましたが、当院では平成18年より形成外科にて下肢静脈瘤の診断から治療までを一貫して行っております。形成外科で下肢静脈瘤の手術を行うメリットとしては、形成外科独自の繊細な手法により、より整容面に留意した手術結果を得ることが出来ることです。

また、最近ではストリッピング術（大・小不在静脈を抜去する手術）において、従来から使用されてきた外翻式ストリッパーに比べ、組織侵襲の少ない内翻式ストリッパーを導入するなど、患者様にとって侵襲の少ない手術を心がけてきました。

さらに、平成24年10月からは、下肢静脈瘤用レーザー（ELVeSレーザー）を導入し、レーザーを用いた血管内凝固による下肢静脈治療を開始いたしました。本治療は今までのように大きく皮膚を切開する必要がない画期的な血管内手術で、患者様の負担も軽く、症例によっては日帰り手術も可能となりました。費用面においても、平成24年4月より正式に保険適応が認められ、すべて保険で診察が可能です。

今まで症状はあるが、手術までしてはイヤだと思われていた患者様にも、安心して治療を受けていただけると考えております。

ご相談は 形成外科まで。

【(継)PET-CT検診ができるようになりました—料金 98,000 円】

PET検診とは、放射線を微量に放出する検査薬を点滴で体の中に入れることで、がん細胞に目印をつけ専用の装置で撮影し、小さながん細胞を早期発見していく検査です。使用する放射性薬剤は18F-FDGというブドウ糖とほぼ同じ性質で副作用は出にくいと言われています。また、検査の被ばく量は一般に体幹部のCT検査と同じぐらいで、医学的に問題となる可能性は極めて低いと考えられています。

当センターのPET-CT装置は、PETとCTの画像を同時に撮影することができる機器で一度に全身の(頭部から大腿部)のFDG-PETがん検診とCT検診を受診できます。国内で5台目のTOF技術(Time-of-Flight)を用いた世界最高水準のもので、ノイズの少ないクリアで高品質な画像を得ることができます。

検査の所要時間は3~4時間かかります。検査室は、優しく穏やかな雰囲気です。検査薬を投与してから約1時間待機していただく待機室には、リクライニングチェアを設置し、毛布や観葉植物、アロマなども用意し、くつろいで過ごしていただける空間となっております。

検査の費用は98,000円です。お申し込みは「患者相談窓口」にお申し出ください。お電話の場合は「医療コールセンター」へご連絡ください。必要書類を郵送させていただきます。検診の結果は、後日、放射線治療科の医師より説明させていただきます。結果説明にお越しになれない場合は、事前にお申し出いただければ、結果郵送も診断専門医・PET診断認定医が行います。

お申し込みの際には、相談室の看護師が対応させていただきますので、検診をお悩み方もどうぞ気軽にご相談ください。

PET 検診ご希望の方は「患者相談窓口」にお申し出ください。

電話申し込みは「医療相談コールセンター」

06-6692-2800

06-6692-2801 まで

【(継) 新たな専門外来—喘息専門外来を開設しました！—免疫リウマチ科—】

このたび、気管支喘息(喘息)治療の標準化、喘息発作患者さんの受け入れ体制の改善、そして喘息死ゼロを目指して、喘息専門外来(成人)を開設しました。

気管支喘息(喘息—ぜんそく)の治療は、近年めざましく進歩しました。

喘息の診断にお困りの方、あるいはなかなかよくなる喘息患者さんは是非、当科の喘息専門外来(成人)を受診して下さい。

喘息に関しては、息苦しくなる発作がその時に治まるだけでいいというものではありません。発作を繰り返すことで、将来気管支が細くなったまま広がりにくくなり、また、気管支がより過敏な状態となることで重症になる可能性が高くなります。従って発作を予防する(炎症を治める)治療をすることが最も大切です。

吸入ステロイドを中心とした炎症を治める治療に重点を置き、抗IgE抗体療法なども積極的に導入させていただきます。また、必要な患者さんには喘息日誌やピークフローによる自己管理をお勧めし、その指導をさせていただきます。

ご相談は、免疫リウマチ科 主任部長 藤原 弘士 まで

【(継) 小児消化器病・肝臓病のお子様の健やかな成長を支援します—小児科—】

当センター小児科では、消化器病・肝臓病の治療に積極的に取り組んでいます。特に炎症性腸炎疾患（IBD）・ウイルス肝炎については「小児消化器チーム」として専門診療を行っています。炎症性腸疾患は原因不明の慢性疾患であり、最近我が国の子どもでも増加しています。当小児科ではステロイド静注療法やステロイドパルス療法に加えて、白血球除去療法、免疫抑制療法（イムラン、タクロリムス）を取り入れた治療を行っています。治療の進歩によって入院回数と日数は大幅に減少し、初回の寛解導入の期間を除けば、おもに外来治療で寛解を維持できております。このことにより患者さんの日常生活や学校生活も大きく改善しております。とくに今年から難治性あるいは重症の潰瘍性大腸炎・クローン病のお子様を対象に、インフリキシマブ（商品名：レミケード）の治験を開始しました。従来の治療では良くならない炎症性腸疾患（IBD）のお子様でも劇的に良くなる方を経験しております。レミケードの治験の実際については、小児科主任部長などに遠慮なくお問い合わせください。

肝臓病ではウイルス肝炎（B型、C型）、自己免疫性肝炎、脂肪肝、脂肪肝炎、硬化性胆管炎、糖原病、ウイルソン病、原因不明の肝疾患などの診療を行っています。

とくにB型肝炎およびC型肝炎のインターフェロン治療（注射薬）、核酸アナログ治療（経口薬）に積極的に取り組んでいます。治療の進歩によってB型肝炎、C型肝炎ともほとんどのお子様において肝炎が良くなっております。

治療に難渋されている潰瘍性大腸炎・クローン病などの消化器病およびウイルス肝炎などの肝臓病に関してはどうぞお気軽にご相談下さい。

小児科 主任部長 田尻仁

【(継)「医療相談」コールセンターのご利用を—地域医療連携室】

患者さんやご家族などからの医療や病院利用に関するご相談を、専門の看護師が電話でご相談に応じさせていただく「医療相談」コールセンターを開設運用しております。是非お気軽にご利用ください。

電話番号 06-6692-2800・2801（専用電話回線）

相談日時 月曜日～金曜日（祝祭日、年末年始を除く）

午前9時～午後5時

相談対象 医療相談を希望されるご本人若しくはご家族等

相談員 看護師

【(継) 診察予約変更センター 11 診療科において診察の予約日・時間の変更を電話で受け付けています！】

当センターでは、下記の 11 診療科を対象に、電話で診察時間の予約の変更ができるよう「診察予約変更センター」を設置しています。是非、積極的にご活用ください。なお、このサービスは初診に関しては行っておりませんので、ご注意くださいますようお願いいたします。

電話番号 06-6692-1201(代表)にダイヤルして

「予約変更センター」と言ってください。

受付日時 月曜日～金曜日(祝祭日、年末年始を除く)

午後3時～午後5時

対象診療科 内科・呼吸器内科 消化器内科 糖尿病代謝内科 整形外科
免疫リウマチ科 皮膚科 形成外科 腎臓・高血圧内科
神経内科 脳神経外科 耳鼻咽喉・頭頸部外科

【(継)入院治療費の概算に加え、新たに外来での検査費用の概算を予めお知らせするサービスを始めました。】

当センターにおきましては、入院患者さんへのサポートを総合的・集約的に行う入院センター(やすらぎセンター)におきまして、ご入院申し込み時に予め標準的な治療を行った場合の概算費用をお知らせするサービスを行っています。

また、昨年、11月1日から、新たに、CT、MRI、RI、エコー検査など検査費用の概算を医療・福祉相談コーナーなどでお知らせするサービスを開始しました。

今月の催し

【(新)平成25年 第1回リウマチ教室】

日時 5月14日(火) 午後2時～3時30分

場所 本館3階 保健教室

講演 ・最新の関節リウマチ治療 ～生物学的製剤を中心に～

講師 免疫リウマチ科主任部長、関節リウマチ・バイオ
サポートセンター長 藤原 弘士

・自己管理・自己注射指導

講師 免疫リウマチ科外来主任看護師 浦出 節子

【(新) 元宝塚歌劇団花組！湯井一葉（ゆい かずよ）・シャンソンコンサート】
～美しき5月のパリの歌姫 湯井一葉パリを歌う～ コンサート

湯井一葉さんは、宝塚歌劇団花組を退団後、パリに留学。帰国後、関西を代表するシャンソン歌手として東京、大阪等でコンサート活動、ホテルのディナーショーと幅広く活躍を続けられ、1988年には大阪文化祭奨励賞を受賞されました。明るくさわやかな実力派歌手として、シャンソンの固定観念に縛られない新鮮で洗練されたステージと共に、幅広い世代に親しまれています。

日 時 平成 25 年 5 月 20 日(月) 午後 2 時～

場 所 本館 3 階 講堂

出 演 湯井 一葉 (ゆい かずよ)

ピアノ: 河野 良 (かわの りょう)

(入場無料)

【(新) 大好評！ 相愛大学連携 第 26 回 外来糖尿病教室
知って得する！ 糖尿病との付き合い方】

日 時 5 月 21 日 (火) 午後 1 時～3 時 30 分

場 所 本館 1 階 アトリウム

内 容 食事診断 13 時～14 時

講演 14 時～15 時 30 分

- ・糖尿病の飲み薬の話 (糖尿病代謝内科部長 畑崎 聖弘)
- ・運動療法について (リハビリテーション科理学療法士 岡村 憲一)
- ・塩分について (栄養管理室・管理栄養士 笠井 香織)
- ・血糖測定 (ご希望の方)

【(新) 今月のすこやかセミナー 「がんとつき合う」】

日 時 5 月 24 日(金) 午前 11 時～12 時

場 所 本館 3 階 保健教室

講 師 大阪府立急性期・総合医療センター

がん疼痛認定看護師 川本 良子

がん緩和認定看護師 門田 昭子

患者会代表 山田 義美

参加費 無料

【(新) 第4回 肝臓病教室】

- 日 時 5月25日(土) 午前10時～12時
※ 9時30分～講演開始まで希望者に体脂肪測定を実施しています)
- 場 所 本館3階 講堂
- 講 演 ・血液検査で診る肝臓病(消化器内科 副部長 春名 能通)
・肝臓とアルコール～医師からのお話し～
(消化器内科 主任部長 井上 敦雄)
・肝臓とアルコール～栄養士からのお話し～
(栄養管理室・管理栄養士 織田 都)
- 参加費 無料

【(新) 第25回相愛大学連携コンサート・ピアノ連弾

～軽やかに奏でるピアノの音色は、七色にキラキラ輝く五月雨の色～】

- 日 時 5月30日(木) 午後2時～
- 場 所 本館3階 講堂
- 出 演 山下 弥生(やよい)(相愛大学音楽学部 専攻科)
小西 菜央(なお)(相愛大学音楽学部 専攻科)
- 演奏曲目 (調整中)
- (入場無料)

【(継) 第9回病院ギャラリー企画展

岩宮武二“アンコールワットで仏像を撮る”写真展】

岩宮武二は1920年に鳥取県米子市に生まれ89年に没するまで、日本を代表する写真家として活躍。1966年46歳で大阪芸術大学の教授となり、後進の育成に貢献した。「今に生きる」を座右の銘にしていた岩宮が、クメール・ルージュによる厳しい破壊にもかかわらず生き残ったアンコールワットの仏像たちを過去から現在、現在から未来への時間的流れのなかで優しく切り取った秀作で今回の企画展を構成。

(本企画展は、大阪府江之子島文化芸術創造センターのご協力を得て実施します。)

開催期間 2013年4月22日(月)～8月23日(金)(午前9時～午後5時30分)

(展示作品 35点—撮影1986年)

- ・アンコールワット正面全景
- ・獅子
- ・カウラーヴァ軍とバーンタヴァ軍の戦闘
- ・バーンタヴァ軍と軍像
- ・群舞するデヴァター
- ・連子窓
- ・第一回廊と中央祠堂
- ・経蔵
- ・闘う兵士と怪鳥
- ・十字中回廊
- ・十字中回廊の諸尊
- ・アシュラ像・アンコールトム

Topics

【(新) やすらぎのプロムナードで季節の訪れを感じよう—北側通路周辺—】

時に肌寒いと思った4月から、陽光輝く5月になりました。今年も満天星ツツジが美しい花をつける季節がやってきました。満天星ツツジは別名、ドウダンツツジと呼ばれ枝分かれしている様子が昔、夜間の明かりに用いた灯台（結び灯台）の脚部と似通っており、その「トウダイ」から転じたとのこと。むしろ今の私たちには灯台というよりは小さなベルのように見えるのですが…。この時期、無数の白いベルたちが「見て！見て！」咲き誇っているやすらぎのプロムナードを、ちょっと空いた時間のくつろぎの場としてぜひご活用ください。

今月のひまわりさん

各種窓口でセンターご利用のお手伝いをさせていただいている医事事務委託会社ソラストの窓口担当を紹介させていただくコーナーです。

【(新) R I 検査室担当 吉田さんの巻】

私はR I 検査室の受付をしています。

R I 検査は患者様に直接ご予約を取りに来ていただき、相談して検査を受けていただく日を決めたり、午前・午後と2回受けて頂く検査が多いので、他の検査に比べて患者様と接する機会が多い部署です。

“R I 検査”は、一般的に聞きなれない検査なので、患者様の中には「どんなことするの？」「MRと名前は似ているけど同じ？」「MRみたいな音がするの？」などとても不安に思われて質問ばかりする患者様が多々いらっしゃいます。

そのような患者様には、検査室に入って動いている機械を見て頂き、技師さんにお話を聞いて貰い納得して、予約をしていただきます。実際、検査をしているところを見学された患者様は安心して、予約をして帰られます。

このように、不安に思われている患者様の気持ちに気づき、その不安を出来る限り取り除き、安心して検査を受けて頂くのも、私たちの大事な仕事だと考えます。

これからも安心して検査を受けてもらえるよう努力していきたくと思います。

その他のお知らせ

【(継) やすらぎ通信はメルマガで！】

「やすらぎ通信」は、メルマガでも配信しております。ご希望の方は、当センターホームページからアドレスを登録していただきますようお願いいたします。なお、ホームページのご検索は、「大阪府立急性期・総合医療センター」にて可能です。

【(継) 医療費の支払いはキャッシュカードでできます！】

当センターの医療費自動精算機は、デビットカード対応となっておりますので、ほとんどの金融機関のキャッシュカードでお支払いができます。

これらの金融機関はJ-Debit に加盟していますので、キャッシュカードに自動的にデビット機能が付与されているからです。(ただし、キャッシュカードでお支払いいただいた場合は即座に口座から引き落とされることとなるため、口座に引き落とし金額以上の残高が必要ですのでご注意ください。)

このため、医療費の支払いのための現金を持たなくても、キャッシュカードがあればお支払いが可能です。

また、引き落としの手数料は不要ですので大変便利です。是非ご利用ください。なお、合わせて一般のクレジットカードでのお支払いもできます

当センターは、当センターが「希望の医療空間」「よろこびの医療空間」「やすらぎの医療空間」となるよう日々努力しています。